

こんにちは 牛越です

【第174回】
みずのわ
プロジェクト



大町市長
牛越 徹

先月5日、大町オリジナルの「かき氷」開発がスタートしました。掘ると見つかる大町の魅力「雪下かき氷」と銘打ち、カフェや飲食店、ケーキ屋さん、レシピを作り、今年6月をめどに販売を開始する予定です。サントリー北アルプス天然水で作った氷を使い、ふんわり積もった真っ白な雪のように仕上げ、地元産の食材などを中に入れ、ブランド力の向上を目指します。将来的にはさらに参加店舗を募り、観光客や移住者に選ばれるまちを目指します。

また12日には、みずのわ研修会が開かれ、50人を超える事業所の皆さんが参加し「大町の水」について講演を聞きました。はじめに「大町市の水が生まれる自然環境」と題し、山岳博物館の鈴木名誉館長と竹村専門員から、大町の水が生まれる仕組みについて、大気の動きや地形地質の成り立ちを講演いただき、普段私たちが何気なく見ている身の回りの自然環境が、豊かで清潔な河川水や湧水を育んでいることを学びました。

次いで環境省水・大気環境局の豊原水循環係長が「水環境

施策と良好な環境の創出」と題し、水循環基本法や官民連携ウォータープロジェクトなど、国の政策動向を説明され、今後大町の水を守り、地域のために効果的に活用することの意義を話されました。

これらの取り組みは、信濃大町みずのわプロジェクトの一環で、市が令和2年に県下市町村初の「SDGs未来都市」に選定され、持続可能な開発目標SDGsの視点から未来都市計画を策定し、地域資源の「水」に焦点を当て、水に関わる人と仕事を主役に、社会、経済、環境の3側面からまちづくりを進めています。今後、100年先の未来においても今と変わらない「水が生まれる信濃おおまち」を目指して取り組みます。

水のおいしい大町では、この4年ほどで、市の創業支援や空き店舗への助成制度を活用して、カフェや菓子店、レストランなど20軒を超える店がオープンし、まちのにぎわいに貢献いただいています。こうした取り組みが持続可能な地域の元氣創出につながることを期待しています。